

令和5年度 第1回 清瀬市史編さん委員会
議 事 要 旨

日 時： 令和5年10月4日（水）午後3時～4時
場 所： 市民協働ルーム（本庁舎2階）
出席委員： 根岸茂夫、栗山 究、谷口康浩、黒川徳男、吉田律人、高久 舞、齊藤隆雄、
齊藤靖夫、黒田一美、今村広司（10名）
欠席委員： 浅倉直美、黒尾和久（2名）
事 務 局： 経営政策部参事、市史編さん室職員3名（4名）

《次 第》

1. 開 会
2. 『清瀬市史 7 資料編 考古』について
3. 通史について
4. 専門部会活動状況について
5. 『市史研究 きよせ』第9号について
6. 市史講演会について
7. その他
8. 閉 会

《配布資料等》

1. 会議次第（令和5年度 第1回 清瀬市史編さん委員会 次第）
2. 『清瀬市史 7 資料編 考古』目次【資料Ⅰ】

《審議経過》

1. 開 会

委 員 長 これより令和5年度第1回清瀬市史編さん委員会を開催いたします。
清瀬市史の編さんも半ばに入りまして、考古、近代、さらに通史、と
山場に入っていくところですが、ご協力をぜひよろしくお願いします。
議事に入ります前に、配布資料について事務局よりご説明をお願いします。

事 務 局 配布資料説明

2. 『清瀬市史 7 資料編 考古』について

委 員 長 では、議事に入ります。まず『清瀬市史 7 資料編 考古』について、
ご担当の谷口先生からお願いします。

考古部会長 『清瀬市史 7 資料編 考古』は、今年度末の刊行予定となっております
して、これをめざして今、原稿の執筆、編集が終盤を迎えているところ

です。

内容につきましては、お手元の資料【資料Ⅰ】をご覧ください。全体として630ページほどのボリュームになる予定です。

前付に続いて、第1章では清瀬市域の自然地理と古環境を述べ、第2章に清瀬市域の遺跡とその分布、発掘調査の情報を整理して記載していきます。第3章以下は、時代別に旧石器時代、縄文時代、弥生・古墳時代、古代、中世、近世以降という順に清瀬市域でこれまで調査された考古資料について説明していきます。また、遺跡から何が出土したかということだけでなく、出土資料のさまざまな自然科学的な分析を進めてきましたので、成果を併せて収録しています。例えば、強清水遺跡から出土した旧石器時代の黒曜石の産地推定であったり、縄文土器についている植物圧痕の調査、古代ですと土師器についていた植物圧痕、中世、近世の陶磁器類についての産地や地域性など、新たな視点もこの資料編のなかに報告していく予定になっています。

『清瀬市史 7 資料編 考古』は、考古資料の性質から、他の資料編に比べて写真や実測図が多いということで、文字と図版類を合せたレイアウト作業を進めているところです。

部会の活動報告とも重なるのですが、原稿の集まり具合としては、図版と文字原稿が揃って提出されている章、文字原稿ができ上っていて図版を作成中のところ、両方作成中というところがあります。多くの執筆者が入っていき、表現や表記に揺らぎがあると困りますので、スタッフのひとりとしてプロのライターに入ってもらい、調整をしています。文字組、フォント、図版の画質などについて、部会で入稿前の編集作業を進めているところです。

自然科学的な分析は、一般の市民の方にわかりにくい面もありますので、なるべくわかりやすく書き直してもらう作業も進めています。

追加の資料調査として、縄文土器の圧痕調査、伊勢遺跡や強清水から出土した旧石器などについて、外部の専門家にも資料を見ていただいてご意見を伺ったりしています。

下宿内山遺跡は、古代の遺跡としても重要ですが、近世の太田氏が下宿に構えていた陣屋の一部でもあります。また、江戸近郊の村の跡としても注目されている遺跡ですので、この遺跡の資料について検討会を行ないました。6名の専門家、そして根岸委員長にも加わっていただいて、原稿と出土資料とを照らし合わせて検討しました。刊行まで残りの時間が短くなってきていますが、資料の評価はなるべく高めたいと思い、こういう活動を続けています。

下宿内山遺跡は調査されてからかなり時間が経っていますので、現在の研究水準で見るとどういうことになるのか、今日の学術水準に合った評価をなるべくしていきたいと思い活動しています。

委員長

ありがとうございました。『清瀬市史 7 資料編 考古』についてお話しいただきましたが、ご質問、ご意見などにかございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

委員

了承

委員長 たいへんな作業であると理解しています。よろしくお願いします。

3. 通史について

委員長 続いて、通史について、部会長会、また市史編さん室との協議などで決まったところを、私からお話します。

通史は、上巻・下巻と2巻に分れ、上巻は、考古、古代・中世、近世、下巻は近代、現代といった形で執筆、刊行していくことになっています。

まず上巻について、判型は資料編と同じく B5 判で 650 ページ程度、できればカラーにしたいと考えています。650 ページのうち、第一編が考古で 130 ページ、第二編が古代・中世で 100 ページ程度、第三編が近世で 400 ページ程度、付物と合わせて 650 ページ程度と考えています。

刊行は令和 8 年の 2 月を考えています。そうすると、実際にはあと 2 年半くらいしかない状況です。古代・中世、近世はすでに資料編を刊行していますが、考古は現在、資料編を編集集中で、資料編を刊行してから通史にとりかかることになり、執筆・編集や校正・印刷の時間を考えると非常に大変な状況になっています。こうした状況も考慮しながら計画を進めていきたいと思っています。

谷口先生からは無理なスケジュールであると言われておりますし、重々承知しておりますけれども、なんとかスムーズに刊行予定に間に合わせたいと考えているところです。

また、下巻がそのあと迫っております。近代、現代、さらに民俗、結核療養の方たちも加わることになるとと思いますが、その辺りも本格的に考えていきたいと思っています。

通史につきましては以上ですが、なにかご質問、ご意見ございますでしょうか。

考古部会長 発言してもよろしいですか。さきほど根岸委員長もおっしゃったように、考古部会は今年度、資料編を刊行するという事で精一杯でありまして、通史については、どういう内容にするか、誰が執筆するのかすら、まだ部会の中で検討できていない状態です。来年度にそういう作業を始めてから執筆をお願いする、ということになります。願った方が執筆を引き受けてくださるかどうかもわからない状態で、期限だけが決められているというのは私達としてはつらいところです。

難しさは、時間がないということだけでなく、考古の場合は清瀬市域だけで語れないので、隣接する所沢市など近隣の地域の考古資料と合わせて市のなかから出土したものの評価を定めていく必要があります、資料編の編さんのための調査とはまた違った通史のための調査がどうしても必要になってきます。そうした調査のための期間も考えると、今、示された日程だと、なかなかやりきれないのではないかと、部会長会でも根岸先生にお話ししてご理解いただいているところです。全体の刊行計画に沿っていききたい気持ちはあるのですが、現実には難しい面があるということでご配慮いただければありがたいと存じます。

委員長 たいへん厳しいということはよくわかり苦しいところではありますけれども、前からの刊行計画ではありますので、なんとか協力しながらやっていきたいと思っています。

ほかに、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

委 員 長 了承

4. 専門部会の活動状況について

委 員 長 続きまして、各専門部会から活動報告をお願いしたいと思います。
考古部会につきましては、谷口先生、さきほどのお話でよろしいでしょうか。

考古部会長 はい。

委 員 長 では、古代・中世部会ですが、部会長の浅倉先生は本日、本務のためご欠席で、ご報告をいただいておりますので、私からご紹介いたします。
まず、資料編を刊行するなかで行って来た調査で収集した史料、特に全国の後北条、上杉などの関連資料を集めたのですが、その成果として多数の古文書画像データがあります。資料集に掲載したものだけでなく、実際にはもっとたくさんのデータがあるのですが、その史料 1 点ごとに史料名を付して整理する作業を行なっています。以前から行なっている作業ですが、時間がかかることですので継続的に行なっています。

また、資料集に収録できなかった史料について、所在がつかめなかったり、画像データが出てこなかったものがありますが、そうした古文書についての所在および画像の入手に関する情報収集をしており、更に史料を集めている途中です。

3つめとしまして、通史の執筆に関して、現在、目次案の検討、および掲載写真などの候補を検討しているところです。

部会を開きそのような活動をしています、というご報告をいただいています。

古代・中世部会の活動につきましては以上ですが、各専門部会の活動状況につきましては、順にご報告いただき、ご質問ご意見等はのちほどまとめていただくことにしたいと思います。

次に、近世部会について、私からご報告します。

委員長／
近世部会長

近世部会では、通史執筆に向けまして、目次案の検討を行ない、ほぼできあがったところで、分担を決めて作業に入り始めたところです。ただ、10人近い執筆者が分担しますので、1か月に1回ずつ集まって、どのように書くか、誰が書くのかといった調整と情報交換を行なっています。

もうひとつは、新しく入手した史料についてお話したいと思います。名古屋の蓬左文庫が所蔵している尾張藩の史料です。蓬左文庫に「清戸之図」という資料があることは前から分かっており、資料編のときに調査に行きたいと思っていたのですがコロナの影響でかなわず、資料編には載せることができなかったものです。編さん室から連絡を取っていただき、このたび画像を入手することができました。

「清戸之図」というタイトルから、清戸周辺の村絵図かと思っていたのですが、これは現在の御殿山にありました尾張藩の清戸御殿の一部を描いたものでした。

絵図には表門が描かれ、表門から入った正面に式台がある。式台のさらに上は玄関になっている。この図は、玄関のところしか描かれていないのですが、この奥に広間とか、藩主の御座所ですとか、家来たちが詰める役所、台所などがあつたはずですので、清戸御殿は非常に大きな御殿であつたことがわかる絵図です。

図には、廊下や玄関脇の座敷を行き来する朱線が引かれています。○がついて藩主や家来の位置を示しており、また、鷹狩りは冬に行なわれますので、玄関の脇には火鉢が描かれています。

図の中に文章が記載され「上使（じょうし）」という語が記されており、この図では將軍からの使いである上使を迎えるときの係の役人の動きが朱線で示されています。

表御門から式台に至る途中に文字が書かれています。「上使につき筵（むしろ）を敷く」とあります。尾張藩主が清戸御殿に来るときには、將軍の許可を得て江戸を離れます。江戸を離れて鷹狩りをしているときに、將軍から上使が清戸御殿に遣わされる。上使が来たときには、冬で霜柱がすごいでしょから、ここに筵が敷かれている。上使はこの火鉢の前の座敷に入り、尾張藩主と対面して將軍からの言葉を伝える。上使が来たことに対し、もてなすために上使に対してお菓子を捧げるのですが、その係の役人の動きが朱線で書かれているのです。その動きが脇に細かく書かれています。

また、この下の部分には、上使が来るに際して、家来がそれぞれどのような役割を果たすかということが書かれています。上使は1泊か2泊しますが、中清戸の村役人の家に泊まるそうです。このとき来た上使は、6千石の身分の高い旗本で、そうすると50人近い家来を連れて来るはずですが、尾張藩主も相当数の家来を連れてきていますから、中清戸だけでなく上清戸から下清戸までの民家がぜんぶ接収されて、そこに尾張藩の家来が泊まっていくのです。上使が来るのに対して、前夜に泊まったところに挨拶にいく家来、上使を御殿まで引き入れて玄関から座敷に入れる家来、あるいは、上使は鷹狩りに行ってから帰るようなのですが、鷹狩りについていく家来など。ですから尾張藩の鷹狩りは大規模で、將軍からの使いまで来ていた。当然といえば当然ですが、この史料によって、はっきりそれがわかりました。

清戸御殿に尾張藩主が来たのは、確認できるだけで9回あるのですが、この図はいつのものかというところ、おそらく8回目の宝暦4年（1754）のときのものではないかと思えます。他は果物を出しているのですが、このときだけ菓子をさし上げたという記録があるのです。本文にもその旨が書かれています。小姓組番頭という幕府の親衛隊の隊長である斎藤撰津守、これが6千石の旗本で、春日局のお兄さんの系統で旗本になった家ですが、その子孫です。その6千石の旗本が上使として来ていたということがわかります。

清戸御殿がどんなに大きなものだったかということがわかり、また、来るたびに清戸の志木街道沿いの民家が全部接収されて家臣たちが泊まった、するとその間、村の人は納屋などにいたのではないかと思われるのですが、そうした鷹狩りに関わる周辺の問題がわかってきた貴重な史料だといえます。

近世については、以上です。

委員長

次に、近代部会について、吉田先生お願いします。

近代部会長

近代部会では、令和6年度末刊行の『清瀬市史 5 資料編 近代』に向けて調査、史料翻刻を進めています。現代部会の黒川先生を中心に、作業室にあります各諸家文書の内容確認を行なう一方、各アーカイブの調査もやっと自由にできるになりましたので、東京都の公文書館等を調査して清瀬関係の史料の発掘作業も進めています。

北多摩郡役所に、清瀬村から村長などを変えるときに提出した書類、届け出や村長の経歴書などのお伺いの書類があります。こういうものを積み上げていくと、村政や担い手の経歴などがわかってくると思います。

諸家文書もそれぞれ担当が目を通しています。現代編につながるような形で章立てをして考えているところです。定期的に調査員の学生たちを連れて作業室での作業を続けています。会議も定期的に行なっています。

近代部会からは以上です。

委員長

ありがとうございます。続きまして、現代部会について黒川先生お願いします。

現代部会長

現代部会では基本的に近代部会のお手伝いをしています。諸家文書もありますが、明治・大正時代の清瀬村会の会議録について主要部分の筆耕を進めており、筆耕はそろそろ終了しようとしています。明治前半については議会関係の史料がないので、明治後半からの史料になります。

また、告示録があります。議会を開きますという議員招集の文書が多いのですが、他にも読んでいくとおもしろいものがあり、例えば養蚕関係だと、蚕の病気に関する告示であるとか、感染症対策で何月何日「清潔法」を行なう、とあるのですが、清潔法の内容が書いてあります。単純に塵芥の清掃や消毒というだけでなく、各家庭において畳をはがしてそれをきれいにする等、そこまでの清潔さを求める、というのがたびたび出てきます。天然痘の流行と種痘についてなど、さまざまなことが告示録に出てきますので、歴史的に意義があるものについては筆耕を進めていきます。

会議録や告示録の筆耕については、今月で終了し、今後は各家から出て来た文書についての筆耕作業に移っていきます。

以上です。

委員長

ありがとうございます。では、次に民俗部会について高久先生お願いします。

民俗部会長

今年度に入りましてお祭や芸能等、随時開催されるようになりましたので、5月のふせぎ行事に始まり、中里富士の開山式、清戸の獅子舞、グリーンタウンの夏祭り、火の花祭など、担当者と手の空いている者で見学を兼ね、調査に入って状況を見ているところです。

また、市史編さん委員の齊藤隆雄さんにご協力いただいて、3人の専門調査員がお話をうかがって、聞き取り調査を行なっているところです。実地調査としてはそのような形で今後も続けていきます。

もうひとつは資料整理も行なっています。博物館にある資料で、聞き取り調査カードが非常にたくさんあるのですが、現代部会の学生調査員の手を借りてデータ化しました。また、同じく博物館所蔵のテープにつ

いてテープ起こしをしたものがあり、ひとつのテープに多数の人のいろいろな話が入っているのですが、これを、例えば女性の関係、講の関係、衣食住の関係などいくつかのテーマごとに整理をしているところです。

9月には民俗部会を開催し、進捗状況を確認しました。

もうひとつは、編さん室でご協力いただき、各中学校区域にある地域の円卓会議で民俗調査の紹介や写真提供のお願いをしているところです。

ほかにも各地区の担当者による現地調査を進めてまいります。

聞き取りのテープ起こしのなかには明治生まれの方のお話の記録があり、それをそのままにしておくのはもったいないので、整理してまとめられるようになりましたら、ぜひ市民の方に還元したいと考えています。もともと資料としては博物館のものでありますので、調整のうえ、来年か再来年になるかわかりませんが、清瀬の聞き書きといった形で報告書にして出せるとよいと考えています。

以上です。

委員長

ありがとうございました。結核療養部会については、部会長の黒尾先生は本務で欠席のためメモをいただいておりますので、私からご紹介いたします。

項目が9つありまして、まず部会ですが、8月8日に開催しました。以後12月、3月に開催予定で調整しています。

次に、関係する借用資料のスキャン作業を進めています。なかでも『保健同人』という雑誌は、結核療養の時代の貴重な記録ですが、これをスキャンし、データ化しています。

3番目として、清瀬で結核療養した作家について文学関係の調査を進めています。文芸作品だけでなく、雑誌などに掲載された短文などを含め、資料収集を継続して行なっています。

4番目に、図書館および編さん室保管資料について、インデックスづくりのための予備調査を行なっており、今後本格化する予定です。

5番目、清瀬病院跡地の試掘による出土遺物について、結核療養編で扱うことを部会で確認しており、整理作業の進捗について部会で視察を予定しています。

6番目、病院街の土地利用の変遷についての調査を行なう予定です。部会で課題を再確認しながら調査を進めていきます。東京都の公文書館の調査、必要に応じて法務局の調査も予定しています。

7番目として病院街の関連の聞き取り調査も続けていきます。民俗部会とも調整しながら結核療養部会でさらなる聞き取り調査も計画しています。

8番目として、疾病としての結核についての調査を考えています。医療的な問題ですが、結核予防会結核研究所の石川名誉所長を表敬訪問して編さん事業への協力を要請しています。

最後に刊行までのスケジュールですが、部会においては今年度、基礎調査を行ない、令和6年度、7年度に本格調査、令和8年度に執筆、令和9年度刊行にこぎつけるというスケジュールを考えています、ということです。

これでひと通り各部会からお話いただきましたが、何かご意見、ご質

問ありますでしょうか。
よろしいでしょうか。

委 員 了承

5.『市史研究 きよせ』第9号について

委 員 長 では次に、『市史研究 きよせ』第9号について、事務局からお願いします。

事 務 局 今年度末に『市史研究 きよせ』第9号を刊行する予定です。
巻頭には、その年度の刊行物、今年度は『清瀬市史 7 資料編 考古』の紹介記事を載せることになると思いますが、それぞれの部会から、ご論考、調査報告など執筆のご希望がありましたら事務局までお声がけください。また、「石碑・石仏探訪」のコーナーも継続したいと考えておりますので、委員のみなさまのご協力をよろしくお願いします。

委 員 長 ありがとうございます。『市史研究 きよせ』第9号につきまして、なにかご意見、ご質問ございますでしょうか。
よろしいでしょうか。

委 員 了承

委 員 長 では、ご協力よろしくお願いします。

6. 市史講演会について

委 員 長 次に、市史講演会について、事務局からお願いします。

事 務 局 今年度の市史講演会を、6月30日にアミューホールにおいて行ないました。講師には、昨年度末、資料編を刊行した現代部会の黒川先生をお迎えし「戦争中の清瀬村―青年たちの動向を中心に―」と題してお話いただきました。20名の方にお越しいただきました。
アンケートには「地道な研究の成果を知ることができてよかった」「日本の近現代政治史と清瀬の住民の歴史との関連を、実存の史料を通じて知る事ができ、清瀬の歴史をより身近に感じるようになった。たいへん有益だった」など好評をお寄せいただきました。
ご参考まで、お手元に当日の配布資料をお届けしておりますのでご覧ください。
黒川先生から何かありましたらお話いただければと思います。

委 員 長 黒川先生いかがでしょうか。

現代部会長 今回の講演会には柱が2つありました。ひとつは題名の通り、戦中期の青年たちの動向ということで、下宿の青年団の戦時下、満州事変以降

の動きがひとつです。青年団で肥料の共同購入をしたり、自分たちで図書館のような文庫をつくったり、活発な活動をしていたことを紹介しました。

もうひとつの柱として、昭和初期の政治の変化について、清瀬村の史料を使って当てはめてみました。政党政治の時代から始まり、例えば民政党だと清瀬に民政倶楽部をつくったり、そのあと選挙粛清運動で内務官僚たちが既成政党をけん制するという運動で、最終的に翼賛運動につながっていくと言われているものですが、これに関する史料が散見されるので、清瀬村ではどうだったのか、これにも青年団、青年学校などがからんでおり、さらにそこから翼賛体制に関する史料、翼賛壮年団結成の史料とか、大政翼賛会が清瀬村で戦争中によく映画会を開いたり、さまざまな動きをしていた、そのような話をしました。

そのほかに、産業組合について、農協ができるまでの流れをお話ししました。帝国農会の系統の清瀬の農会の話、そのあと産業組合という今の農協につながる団体が昭和14年に結成されますが、その帝国農会系の農会と産業組合が、昭和19年に合併して農業会に変わります。のちに農業会が解体されて戦後、農協ができていくのですが、その流れを青年団とかかわるような形で史料を並べて動きを追いました。

ということで戦争中の動きについて、地道に、地味に、といいますか、清瀬の場合はどうだったのか、硬いお話をいたしました。

委員長 ありがとうございました。なにかご意見いかがでしょうか。
よろしいでしょうか。

委員 了承

6. その他

委員長 以上で用意した議題は終わりですが、委員の皆様からなにかその他ございますでしょうか。

民俗部会長 お願いしたいことがあります。先日編さん室から情報提供をいただきまして、新座と下宿の市境あたりで、市から委託されて調査しているという正体不明の人が歩き回っているという情報があるとのことでした。民俗部会に連絡しましたところ、今回の話には該当していませんが、民俗の場合は調査でお話を伺ったあと地域を歩くということはよくあることなので、身分証明書を発行してもらい、それを身に付けて調査に臨みたいという要望がありました。市章と公印があるものでパウチされたものがよいのではないか、という意見がありました。

もうひとつは、もし歩き回ることが問題を生じそうな地域があるようであれば、事前に情報をいただけるとありがたい、ということです。

委員長 ありがとうございます。この件につきまして、事務局いかがでしょうか。

事務局 身分証については用意したいと思います。また、民俗の調査を行なっているということも周知に努めます。

委 員 長

ぜひよろしくお願いします。
その他について、事務局から何かございますか？

事 務 局

刊行物の販売会を行ないましたので、そのことについてご報告したい
と思います。

先生方のお力で市史も資料編 3 冊が既刊となりました。また、資料調査報告が 5 冊、市史研究も 8 冊が出ました。ここ数年コロナの影響で販売機会を持てずにいましたが、5 類移行でいろいろな制約も解除されたので、そろそろ販売の機会を設けようと考えました。新刊の『清瀬市史 6 資料編 現代』の販売開始が 5 月 15 日だったのですが、その翌週 5 月 23 日に庁舎ロビーにて販売会を開催いたしました。

告知としましては、庁内にポスターを掲示し、また市報でお知らせいたしました。平日火曜日の午前 10 時半から午後 2 時半までの 4 時間限定の催しでしたが、この間、お立ち寄りくださった方が 10 名いらっしゃいました。そのうちのお二人、ご夫婦だったのでしょうか、この販売会を目指してご来庁くださったご様子で、新刊 2 冊『清瀬市史 6 資料編 現代』と『市史研究 きよせ』第 8 号をお買い上げくださいました。

今、写真をお廻ししていますが、テーブルにこれまでの刊行物を並べてみると、長机 2 本がいっぱいになり、成果物としてたいへん見ごたえがありました。市史編さん事業の PR になったと思います。文字媒体による呼びかけだけでなく、実物を並べて販売していく機会を定期的に設けていくことが大切かと思っております。

委 員 長

ありがとうございます。

事 務 局

もうひとつ、よろしいでしょうか。ふせぎ保存会の会長とさきほどお会いしたのですが、今回のふせぎ行事には、コロナ明けとあって、来場者が今まででいちばん多かったそうです。火の花祭りもそうですが、市民の方の多くが清瀬の文化や歴史に興味を持っています。

市としても、刊行物の内容紹介なども作って配布するなど、アピールしていきたいと考えています。

郷土博物館も改装工事をしています、11 月に再オープンするのですが、展示スペースを増やしました。新たに結核療養に関して、また民俗に関して、これまでの調査で出てきたものなどを改めて展示していくことを考えています。博物館と市史編さん事業で内容に齟齬があってははいけませんので、市史の成果をもとにして展示をしていきたいと考えています。展示の音声化、映像化も考えていきたいところで、今後ともご協力よろしくお願いします。

委 員 長

ありがとうございます。よろしくお願いします。他にいかがでしょうか。

委 員

清瀬にどういう軍事施設があったのか、また、それに伴う空襲の被害はどの程度あったのか、ということを知りたいと思っています。

昭和 49 年に、平和の塔を中央公園に建てて、そこには戦死者の名前 169 人分が納められているのですが、そのうちの清瀬の村の人は何人く

らいいたのか。戦死した場所も書いてありますが、フィリピンだけで 40 人とずいぶん大勢の方が亡くなられているなどと思います。

清瀬の軍事施設がどこに、どういう形であったのか、松根油の搾油所のことや、照空隊の存在、大和田通信隊の部隊が気象衛星センターのところにあったことなどを、どこかに書いて後世に伝えてほしいと思います。

応召していま存命なのは大正 15 年生まれのひとりのみです。古い話はなるべく早く聞いて、伝えてほしいと思います。

現代部会長 今回は資料編ということで、大和田通信所と照空隊に関する史料は掲載できたのですが、空襲については、東京療養所の日誌くらいでした。今後、通史に向けて調査を進めていきますので、委員にもお話を伺うなどご協力いただくことも多いと思います。よろしくお願いします。

委 員 長 ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

事 務 局 先日、千葉県庁の文化財課の方から興味深い話を聞くことができました。市から千葉県の銚子に職員を派遣している関係でお目にかかったのですが、千葉県の北総に清瀬や所沢から農業指導で移り住んだ方があって、ハレの日にうどんを食べる風習があったり、林や畑の境に茶ノ木を植えたりということがあるそうです。対応してくださったのが偶然これを調査された方で、そうしたお話を聞いて、清瀬との関係がわかるとういと思いました。

近代部会長 森田家の文書調査をしていて、ふすまの裏紙が千葉のもので、おもしろいと思っていました。移住者の話につながると思います。

事 務 局 農業指導に行かれて、戻った方もあり、移り住んだ方もいるというお話でした。現在の富里市周辺のお話です。

委 員 長 興味深いお話をありがとうございました。他にありますでしょうか。

事 務 局 次の委員会についてですが、委員会の開催は年 2 回ですので、次回は年度末 3 月を予定したいと考えております。

委 員 長 次回委員会は 3 月予定ということですが、よろしいでしょうか。

委 員 了承

委 員 長 ほかによろしいでしょうか。

委 員 考古編の内容についてですが、いろいろお調べいただいているのですが、古い時代の清瀬の自然環境、植生について、触れていただけるとよいと思うのですが。

考古部会長 その内容でしたら、第 1 章第 2 節で触れています。標題が「環境史」となっているのでわかりにくかったかもしれませんが、環境史のなかでは、植生に関わることとして、武蔵野地域の遺跡調査で花粉分析をかなり行なっていますので、そこからわかってきた植生変遷について、この

項目のなかで扱っています。

委 員 わかりました。

委 員 長 ありがとうございます。他によろしいでしょうか。

委 員 了承

8. 閉 会

委 員 長 ではこれで、令和 5 年度第 1 回清瀬市史編さん委員会を閉会いたします。ありがとうございました。

『清瀬市史 7 資料編 考古』 目次	予定ページ数 600±30
	執筆者
扉	
巻頭写真	
編集にあたって（考古部会長）	谷口康浩
例言	
凡例	
目次（本文）	
挿図目次	
表目次	
第1章 清瀬の地理と古環境	
第1節 地形と地質	久保純子
文献	
第2節 先史時代における武蔵野台地の古環境とその変遷	工藤雄一郎
1. 第四紀の古環境の変遷	
2. 先史時代の武蔵野台地の古環境分析の事例	
3. 花粉分析のデータからみた先史時代の古環境の変遷	
4. まとめ	
文献	
第2章 清瀬市域の遺跡の概要	薮下詩乃
第1節 遺跡の立地と時期	
1. 市域の遺跡	
2. 市域の地形と遺跡の分布	
第2節 市域の発掘調査	
1. 伊勢遺跡	
2. 野塩外山遺跡	
3. 野塩前原遺跡	
4. 野塩前原東遺跡	
5. 野塩遺跡群（第1地点～第10地点）	
6. 野火止野塩遺跡	
7. 中里下戸遺跡	
8. 強清水遺跡	
9. 清戸下宿遺跡	

10. 下宿内山遺跡	
第3章 旧石器時代	藪下詩乃
第1節 旧石器時代の概要	
1. 旧石器時代概説	
2. 旧石器時代の編年	
3. 旧石器時代の遺構・遺物	
第2節 旧石器時代の遺跡	
1. 伊勢遺跡	
2. 強清水遺跡	
3. 野火止野塩遺跡	
4. 下宿内山遺跡	
5. 野塩遺跡群	
6. 市内の表採資料	
用語解説	
文 献	
第3節 強清水遺跡出土黒曜石製石器の産地推定	竹原弘展
1. 黒曜石からわかること	
2. 黒曜石の産地推定	
3. 強清水遺跡出土黒曜石製石器の産地推定	
用語解説	
文 献	
第4章 縄文時代	谷口康浩・中島将太・松本耕作
第1節 縄文時代の概要	
1. 縄文時代概説	
2. 編年と年代	
3. 多摩地域における縄文時代遺跡の動向	
4. 清瀬市域の縄文時代遺跡	
第2節 草創期・早期・前期の資料	
1. 野塩遺跡群（草創期・前期）	
2. 野火止野塩遺跡（早期）	
3. 強清水遺跡（前期・早期）	
4. 下宿内山遺跡（前期）	
第3節 中期の資料	
1. 野塩外山遺跡	
2. 野塩前原遺跡	
3. 野塩前原東遺跡	

4. 野塩遺跡群	
5. 中里下戸遺跡	
第4節 後期・晩期の資料	
1. 強清水遺跡	
2. 伊勢遺跡C地点	
3. 野塩前原東遺跡	
用語解説	
文 献	
第5節 縄文土器の種実・昆虫圧痕	山本 華
1. はじめに	
2. 試料と方法	
3. 結 果	
4. 考 察	
5. おわりに	
用語解説	
文 献	
第6節 X線CTによる縄文土器の潜在圧痕調査	佐藤悠登
1. はじめに	
2. 対象と方法	
3. 結 果	
4. 考 察	
5. まとめと展望	
用語解説	
文献一覧	
第5章 弥生時代・古墳時代	東野豊秋
第1節 弥時代生・古墳時代の概要	
1. 弥生時代から古墳時代へ	
2. 清瀬市域と周辺の遺跡	
第2節 弥生時代の遺跡	
1. 下宿内山遺跡	
2. 野塩前原遺跡	
3. 中里新田遺跡	
4. 中里下戸遺跡	
第3節 古墳時代の遺跡	
1. 下宿内山遺跡	
用語解説	

文 献	
第6章 古 代	青木 敬・神澤郁美
第1節 古代その諸相	
1. 律令国家と地方支配制度	
(1) 律令国家とは	
(2) 国郡里制	
(3) 新羅郡・高麗郡の建郡	
(4) 租税	
(5) 交通	
(6) 文字の使用	
2. 集落と環境	
(1) 集落の様相	
(2) 古代の柳瀬川流域の開発	
第2節 古代の遺跡	
1. 下宿内山遺跡出土須恵器からみた年段階	
(1) 古代南武蔵野土器編年の再検討	
(2) 6時期区分と年代観	
2. 下宿内山遺跡	
(1) 検出した遺構の概要	
(2) 竪穴建物	
(3) 掘立柱建物跡	
(4) 井 戸	
(5) 旧河道・用水	
(6) 足 跡	
(7) 遺構の評価	
(8) 遺物の評価	
(9) 集落内のグループ構成と変遷	
(10) 古代の下宿内山遺跡の評価	
3. 野塩遺跡群	
(1) 概 要	
(2) 第1地点	
(3) 第2地点	
(4) 第3地点	
(5) 第4地点	
(6) 第5地点	
(7) 第6地点	
(8) 第7地点	
(9) 第8地点	

(10) 第9地点	
(11) 第10地点	
(12) 調査成果とその評価	
4. 清戸下宿遺跡	
5. 野火止野塩遺跡	
6. 中里下戸遺跡	
第3節 出土文字資料（墨書土器）	
1. 墨書土器	
2. 野塩遺跡群	
3. 下宿内山遺跡	
用語解説	
文 献	
第4節 土師器の植物圧痕	山本 華
1. 野火止野塩遺跡から出土した土師器の植物圧痕	
2. 分析資料と方法	
3. 分析結果	
4. 周辺の事例と考察	
用語解説	
文 献	
第5節 下宿内山遺跡出土の炭化モモ核	松元美由紀
1. 試料について	
2. 分析の方法	
3. 分析の結果	
4. 考 察	
用語解説	
文 献	
第7章 中世・近世以降	
第1節 清瀬の中世・近世以降の遺跡の概要	
1. 中世の遺跡の概要	水口由紀子
2. 近世の遺跡の概要	石井たま子
3. 近現代遺跡の概要	中野光将
第2節 中世の下宿内山遺跡	深澤靖幸・水口由紀子
1. 遺構・遺物の概要	
2. 中世遺構群の様相	
3. 中世遺構群（A～E群）以外の様相	
4. 出土石塔の様相	

5. 成果と課題	
第3節 近世の下宿内山遺跡	石井たま子
1. 近世の下宿内山遺跡	
(1) F・G-9・10 地区—旗本陣屋跡	
(2) E～H-0～2 地区—白山神社東部	
(3) G・H-10～12 地区—陣屋跡南西部	
(4) G・H-13・14 地区—庄屋高橋家北東部	
第4節 近現代の下宿内山遺跡（中野）	中野光将
1. 近現代の下宿内山遺跡	
(1) 石土台建物	
(2) 地下室	
(3) 土 坑	
(4) 井 戸	
(5) 溝	
(6) 用 水	
(7) 下宿内山遺跡出土農業関連陶磁器碗	
第5節 清瀬市域の中世以降の遺跡	
1. 清戸下宿遺跡（深澤・水口）	水口由紀子
2. 澁谷氏屋敷地内遺構および所蔵資料	深澤靖幸・近藤好和
3. 野塩外山遺跡	深澤靖幸
4. 野塩前原遺跡	中野光将
用語解説	
文 献	
挿図・表出典一覧	
文献一覧	
関係者リスト	
あとがき	
奥付	